

| | |
|------------------|---|
| Title | 関係会社マネジメントに関する一考察 |
| Sub Title | |
| Author | 梶野弘尊(Kajino, Hirotaka) 柴田典男 |
| Publisher | 慶應義塾大学大学院経営管理研究科 |
| Publication year | 1996 |
| Jtitle | |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 修士学位論文. 1996年度経営学 第1249号 複写許諾が必要 |
| Genre | Thesis or Dissertation |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001996-1249 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

梶野 弘尊

主査 柴田 典男

(東京電力株式会社)

副査 山根 節

森川 英正

所属

柴田 典男 研究室

関係会社マネジメントに関する一考察

近年、企業が連結決算での業績を以前より重視する傾向を強めていることからわかるように、「グループ経営」の重要性への認識が高まりつつある。

その「グループ」を構成しているのは、中心となる「中核企業」と「関係会社」であるが、通常関心を持たれていないがグループにおいて重要な役割を果たしている「関係会社」について、理想的なマネジメントはどうあるべきかについてアンケートを実施した上で分析を試みた。

アンケートでは、現状のグループ経営における一元的管理の困難性や、経営資源の分散による非効率性が多く指摘された。

それを受け現在の関係会社マネジメントに関する最大の課題である「関係会社・グループの収益性の向上」を中心に分析し、結論として、

- 関係会社を統括する「関連企業室」の機能強化
- 関係会社の一元的な管理の強化
- 明確な関係会社の格付、業績評価基準の設定
- 関係会社の整理基準の設定
- 従業員の労働力の流動化

を提案する。

これらの施策により、グループは関係会社に関する意志決定に要する内部調整の不経済さから解放され、激動する環境の中、より迅速なアクションを取ることができるのである。

また、一元的な管理により、各関係会社にグループ経営資源を有効に投入することが可能となり、収益性の向上が図れるのである。